

2023年度 学校法人 三幸学園 東京未来大学福祉保育専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小平 香織

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、福祉保育分野の学校として「福祉・保育現場に貢献することで、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、福祉保育分野として「豊かな人間性と確かな技術で、関わる人に、幸せや希望を提供できる人」を人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

●主体的に学べる仕組み作り＝行事、産学連携の活用

2023年度卒業生アンケートでは、「学校で主体性(自ら考え、自ら行動する力)を身につけた」という項目において保育科は3.25(こども分野全国平均3.13)という、三幸学園こども分野において最も高い結果となった。介護福祉科は3.19(医療分野全国平均3.01)で、こちらは三幸学園医療分野において二番目に高い数値となり、多くの生徒が主体性を身につけたことを実感しているアンケート結果となった。

姉妹校合同行事である三幸フェスティバルを開催するにあたり、各クラスの委員やリーダーが目標を設定し、その設定した目標のためにクラスを団結させ、練習を指導するなど、生徒が中心に立って運営をすることで生徒全体が行事に対して主体的に臨むことが出来た。行事満足度も非常に高く、次年度もリーダーをやりたいたいの声が上がったり、三幸フェスティバル以降、雰囲気上好転するクラスがあったりと、次年度につながる教育効果をもたらすことが出来た。

介護発表会は発表内容を選択制にすることで生徒が主体的に取り組める仕掛けを作った。実行委員の人数を増やし生徒主体の準備・運営を目指したが、教員のサポートが多く必要という点で課題が残る。保育発表会は教員が前に出て仕切るのではなく、準備から運営全てにおいて生徒が主となり進めていく方法をとっており、生徒の主体性を発揮できる行事の場として活用している。

●生徒の長所を見つけ・伸ばす仕組み作り

＝生徒全員にスポットライトを当て長所を見つけ伸ばしていく(授業・行事)

担任教員中心に長所を見つけ、声掛けするだけでなく、土日のオープンキャンパスをサポートするキャスト活動や、保育科の地域連携みらいキッズ、近隣保育園との授業連携、介護福祉科の産学連携チャレンジド・ヨガ、その他行事を通しそれぞれが活躍する場を提供出来た。

卒業生アンケート内の、「本校で成長することができましたか」の問いに対し下記の結果となっており、卒業生のほとんどが成長実感を得て卒業していることが分かるが、保育科に比べ介護福祉科の成長実感が少ないため、次年度は介護福祉科に対する施策が必要。

保育科	出来た	81.4%(81.6%)	どちらかと言えば出来た	18.6%(17.1%)	計	100%(98.7%)
介護福祉科	出来た	50.0%(63.3%)	どちらかと言えば出来た	46.0%(34.7%)	計	96.0%(98.0%)
全校平均	出来た	62.4%(62.2%)	どちらかと言えば出来た	34.2%(34.3%)	計	96.6%(96.5%)

※()内は 2022 年度数値

●教職員の一体化・連携＝全体会議/学科会の充実、授業後には必ず声掛けし情報共有を図る

担任から教科担当へ声掛けし情報共有を図る意識は醸成出来たが、個人差があることが課題。年に3回の全体会議の際に実施する学科会では、カリキュラムマップを共有することにより、教科の関係性を明示することで教科間連携を取りやすい環境にした。保育科では各教科の連携に力を入れて、継続して開催することで、各教科の連携を促進することが出来た。介護福祉科の学科会では各領域の目標設定、各教科の進行と到達目標の設定をすることで連携が強まった。これまで以上に教科担当の立場に立った情報発信や巻き込みを行っていくことで、より一層の協力関係を図りたい。

●専門教育の充実と魅力的な授業展開

＝担当授業のブラッシュアップ、教科会の活用、授業研究

介護福祉科では2022年度より導入したタブレット学習が定着し、タブレットを有効活用した授業が多く見られるようになった。保育科1年次科目「地域支援実践」を地域連携みらいキッズの運営準備に充てることで、早い段階から地域の子供たちと触れ合える実践的な授業にブラッシュアップした。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・社会経済のニーズ等の情報収集をする場が、主に年2回の教育課程編成委員会のみになっている。

② 今後の改善方策

・実習巡回や就職先の訪問等において、実習生・就職者のフォローだけでなく、社会経済のニーズ等の情報収集も目的に加え実施していく。

・普段の業務や生活の中で何気なく収集している社会経済のニーズ等を集約し、全体で共有する場を設ける。

③ 特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・事業活動に沿った運営方針として、教育活動に関する目標や課題、重点施策等は明確にしており、学校運営に関わる教職員には十分に周知できているが、学生に対しての周知は不十分な部分がある。
- ・情報システム化は進んでいるものの、業務の効率化についてはまだ課題が残る。効率的、効果的に業務を進めるためには情報システムを使いこなせる人材の育成が必要である。

② 今後の改善方策

- ・ホームルーム等で学生にも、本校の学生として目指してほしい到達点の共有をし、学生自身にも目標を意識した学校生活を送ってもらうようにする。
- ・業務を効率的、効果的に進められるよう、会議で強化点を共有したり、研修を行ったりするなどして人材育成に力を入れていく。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・時代の流れに応じてタブレット端末を使用しての授業が介護福祉科で行われているが、保育科を含めた学校全体への普及や使用方法などの確立が難しい。

② 今後の改善方策

・タブレット端末に限らず、授業内で現場の実情に即した ICT 教育を取り入れていく。

③ 特記事項

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・目標を喪失し退学を申し出る生徒への有効的なアプローチ方法を模索している。

② 今後の改善方策

・入学後の目標喪失を防ぐために、入学前オリエンテーションなどで学校概要の詳細を説明しておく。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・能力的に難しい学生や、業界外の就職を目指す学生に対して早い段階でのサポートが必要。
- ・就職指導のスピード感が就職活動の開始時期と一致せず、就職に必要な業界理解に遅れが出た。（介護福祉科）
- ・就職後、早期離職してしまうケースが見られた。（保育科）

② 今後の改善方策

- ・自己分析を行い、強みを把握した上で自身に合う企業を見つけられるような支援を行う。
- ・就職活動の開始時期を意識できるよう、新年度当初より動機づけを行う。（介護福祉科）
- ・実習と就職担当者を統一し、エリア担当としてアプローチを行うために、面談などで関係性を構築する。（保育科）

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・施設・設備については、経年劣化により、修繕が必要な箇所が出てきている。
- ・昨年度より海外研修が計画されるなど、教育体制としては環境が整ってきたが、参加に繋げるのが難しい。
- ・専門単体での避難訓練は実施できたが、校舎全体での訓練は未実施。

② 今後の改善方策

- ・教育活動に支障が出る前に、計画的に修繕を進めていく。
- ・学生に貴重な体験を提供できるよう、周知方法を検討すると共に、海外研修及び各種体験の魅力や意義を伝えていく。
- ・校舎全体で、合同避難訓練を実施する。

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・コロナが明け、留学生の受け入れが大幅に増加したが、日本語能力が低い学生が多く、対応・受け入れが難しい学生が多数いた。また、学費の支払いが難しいなどの理由で、留学生の出願後辞退も多かった。
- ・例年よりも特待生入試の受験者が少なく、特待生の人数が減った。また、AO 特待生入試の再チャレンジ制度を利用する学生が1名のみだった為、入試後の案内を検討する必要がある。
- ・委託訓練生の確保に苦戦した。
- ・姉妹校飛鳥未来高校からの進学者数が伸びなかった。通信制高校から専門学校へのギャップを感じる学生もいる。

② 今後の改善方策

- ・入学希望者の日本語学校と連携し、入学前のフォローを実施する。（入試概要・入学条件・学費・求められる日本語能力の説明等）
- ・昨年度訪問をした日本語学校から進路ガイダンスのご案内を頂いたり、新入生の出身日本語学校から卒業式参加のご案内を頂いたりなど、少しずつ日本語学校との関係性が構築されてきている。今年度は引き続き学生募集と新入生フォローの観点から訪問を実施する。
- ・オープンキャンパス時の在校生スタッフの育成強化とあわせ、積極的に卒業生に参加してもらうことで、入学後の期待値を上げ、出願数の増加に繋げる。また、在校生・卒業生との交流を通し、繰り返し来校してもらうことで、入学前から愛校心を育て、特待生確保に繋げる。
- ・AO 特待生入試において、不合格者に対し再チャレンジ制度への促しを案内する。
- ・ハローワークへの訪問と合わせ、委託説明会後のフォローを本科生同様、丁寧に行う。
- ・在籍中の委託訓練生を確実に卒業・就職までサポートし、今後の委託生確保に繋げる。
- ・姉妹校である通信制高校については高校の授業に向いて学校の認知度を上げるとともに、専門学校の教員を知ってもらい、入学のハードルを下げる。入学前に姉妹校の卒業生を集めた懇談会を実施していく。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

・今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・ボランティアの案内はしたが参加者が少なかった。

② 今後の改善方策

・周知の仕方を改め余裕の持った発信をすることで参加者の増員を目指す。また、まずは同施設のぼけっとランド綾瀬と連携を強化していき気軽にボランティアをできる環境を整える。

・介護福祉科のボランティアについては、案内を早めにいただけるよう介護実習の巡回時や電話にて依頼する。

③ 特記事項

・コロナ禍による規制や自粛が緩和され地域交流イベントへの参加者が増加しており学生の学びを深められた。（保育科）

・葛飾ろう学校との連携が6年ぶりに再開し学生同士の交流が深められた。（介護福祉科）

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

- ・留学生のスポンサーに対する理解や認識が低く、紹介後に辞退が相次いだ。
- ・介護福祉科の留学生は、日本語能力が低い学生が多く、入学前後のフォローアップを強化する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・入学希望の留学生に関しては日本語学校と情報共有し、スポンサーの制度についても理解してもらう。
- ・入学前はオープンキャンパスに複数回参加してもらい、入学後は日本語フォローの授業に必ず参加するよう指導する。

③ 特記事項

- ・昨年度と比較すると介護福祉科の留学生の入学者数が伸び、更に、キャリアデザイン総合科にも大学・大学院を受験希望の学生が多数入学した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について、学校関係者評価委員からは概ね適切であるとの評価をいただいた。

地域に根差した、愛される保育、福祉の学校になるために委員の皆さまから積極的にご意見を頂いたので、まずは同施設にあるぽけっとランドとの連携を深め、業界連携、地域連携の足掛かりとしていきたい。

・同じ建物内にあるため、専門学校と保育園との交流を増やしたということは長らくアピールしていただいていた。昨年度から繋がりが増えているので今年度はより増やしていきたい。それによって相乗効果で園も学校もよりよくなっていくと思う。

また、昨年度は卒業生が当園に就職したが、その職員が入職当初、不安定になった時期に同じ建物内にあることで学生時代のことについて質問したり、相談したりできたことが大変ありがたかった。今後、当園だけではなく他の園でもそのように繋がることで卒業生にとっても園にとってもよい効果があるのではないかと。(姉崎委員：保育科について)

・ボランティアは学生のためにもなるが、受け入れ側としては園児が様々な人と関わることは成長していく中で必要なことだと思ったので、今後は積極的に受け入れていきたい。(竹田委員：保育科・介護福祉科について)

・働き手が不足している日本の現状において、サポートの充実している学校というのは介護・福祉の業界だけではなく世の中にとって非常にニーズがあると考えている。その中で卒業生を受け入れている我々業界と学校との連携はこれからますます重要になっている。また、学校で成長できたと思って卒業している学生が多いことに感銘を受けた。卒業生を受け入れるにあたって、学校で情熱を持って育ててもらった学生が入職してきていることを忘れずに接していきたい。(松縄委員：保育科・介護福祉科について)

・私が所属している課では就労支援の業務をメインに行っており、相談者を三段階に分けている。働きたいけど働けないという人、人とコミュニケーションを取ることに困難な人、根本的な生活リズムが整っておらずすぐには就労できない人の3つで、訪れる人は全員状況が異なる。みんな異なる状況で訪れてくるという点では学校も同じではないか。それを一斉にスタートさせ、育て、卒業させることは簡単ではない。当課では、就業後のフォローを定期的、継続的に行っている。気にかけてくれる人がいるということは就職したての人にとって精神的な支えになるため今度も続けていってほしい。

また、挨拶運動は足立区でも役職者と1年目の職員が始業前の時間に庁舎前で行っている。毎日それをコラムに書いて全庁共有するほど区でも重要視している部分である。学校の目標にも掲げられているように重要なことだと感じているので、今後も大切にしていってほしい。(大北委員：保育科・介護福祉科について)

・オープンキャンパスに行っただけで終えたり、申し込んだのにオープンキャンパス行かなかったりという留学生がいる。オープンキャンパスがどのようなものなのか理解しないまま申し込む留学生もいる。最近は留学生間のうわさやSNS上の情報で介護分野はお金がかからず学べる、ビザが必ずもらえるなどの正確ではない情報だけを鵜呑みにして行ってしまったりしている。当校でもアンケートを取ったところ、介護を希望している留学生の割合は非常に高かった。介護の仕事についてしっかりと説明し、理解をしてもらってから送り出していく必要があると思う(平井委員：介護福祉科について)